

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・平林・吉田^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- コーディングマニュアルの作成を大林・合川で行なうこととなった。(吉田)
- 次回の IAEA 会議までに 1998 年度分 (更新) が 6 編、1999 年度分 (新規) が 4 編、2000 年度分は 20 編、計 34 編の EXFOR への変換を目標とする。(吉田)
- 人事往来
 - COE 研究員...大塚、近江 (来年 3 月迄)、大林 (本年 4 月迄)
 - 招聘...Filippov 氏 (10-12 月)、Lohdi 氏 (2ヵ月)
 - 派遣...大西 (BNL)(加藤)
- 研究員の役割については大塚は評価と簡単な変換、近江はエディタの開発、大林は大塚とともに変換をそれぞれ行なう予定である。(加藤)

3:議論

- 年次報告分担
以下の構成とする。原稿~~メ~~切は 5 月 21 日。
 - 巻頭言 (加藤)
 - Schwerer シンポジウム (加藤・大林)
 - CONTIP の進展と今後 (大林)
 - IAEA センター長会議報告 (千葉)
 - NTX 開発報告 (千葉)
 - 辞書 WG 報告 (能登)
 - NRDF と EXFOR の対応 (片山)
 - Descouvemont 氏との議論 (大西・大林)
 - 謝辞 (加藤・吉田)
 - 作業記録 (吉田)
 - 業績一覧 (編集委員)
- NRDF コード追加
RUTH-RATIO:Rutherford 散乱断面積に対する相対断面積

4:次回

2001年5月21日 17:30 より